





# 目 次

## 水道工事施工管理基準

[土木編]

[1]一般	
1. 目的	2
2. 適用	2
3. 構成	2
4. 管理の実施	2
5. 管理項目及び方法	3
6. 規格値	3
[2]出来形管理基準	
1. 目的	5
2. 出来形管理基準および規格値	
(1) 土 工	7
(2) 管 布 設 工	7
(3) 推 進 工	11
(4) 水 管 橋 上 部 工	13
(5) 管 防 護 工	15
(6) 弁 室 築 造 工	17
(7) 弁 栓 類 据 付 工	19
(8) 鉄 箱 類 設 置 工	19
(9) 舗装工(路面復旧工)	21
(10) 鋼 管 塗 覆 装 工	23
[3]品質管理基準	
1. 目的	26
2. 品質管理基準および規格値	
(1) 管 布 設 土 工	27
(2) 管 布 設 工	29
(3) 鋼 管	31
(4) 舗装工(路面復旧工)	31
3. 公的試験機関での品質管理試験を行う項目	37
[4]写真管理基準	
1. 目的	40
2. 撮影箇所一覧表	45
・品質管理写真撮影箇所一覧表	47
・出来形管理写真撮影箇所一覧表	48
管工事撮影要領フロー(参考)	52
[5]工事関係書類	
1. 工事関係書類一覧【土木】	54
2. 工事関係書類 様式一覧【土木】	69
[6]参考資料	
様式例一覧	163























































































































































































































































部長	課			課		
	課長	係長	係員	課長	係長	係員
(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)

令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日

報告書  
(監督担当課の見解)

福岡市公共工事安全推進委員会委員長 様  
( 公共工事安全推進委員 )

局 部 課  
課長

工 事 件 名	名 称	○○工事					
	請 負 金 額	○○,○○○,○○○円	工期	R○.○.○ ~ R○.○.○			
	受注者名	(株)○○組					
	現場代理人氏名	○○ ○○					
発 生 日 時 等	令和 ○ 年	○ 月	○ 日	( ○ 曜日)	○ 時 ○○ 分頃	天候	曇り
事故の原因 に対する見解							
受注者の注意義務 に対する見解							
事故後の措置 に対する見解及び 監督担当課が行った 周知並びに研修 等							
添 付 書 類 等	・ 死傷病報告書(労基署提出分の写し) ・ 診断書(写し) ・ 現場見取り図 ・ 現場写真 ・ 事故状況図 ・ 構築物の構造図等 ・ 埋設物位置図等 ・ その他( )						

- 備 考
1. 添付する書類を○で囲むこと。
  2. 添付書類等は、様式2(受注者作成)で添付された書類については不要。

様式 - 1 4

## 工 事 履 行 報 告 書

工事名	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事		
工期	～		
日付	(        月分)		
月 別	予定工程 % ( ) は工程変更後	実施工程 %	備 考
(記事欄)			

課長	総 括 監督員	監督員

現 場 代理人	主 任 (監理) 技術者

様式－15

課			課			課		
課長	係長	係員	課長	係長	係員	課長	総括監督員	監督員

年月日：

(発注者)

福岡市水道事業管理者 殿

(受注者)

## 中間前金払認定請求書

工事請負契約書第34条の2に基づき、下記工事の中間前金払の認定を請求します。

記

契 約 日 令和〇年〇月〇日

工 事 名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工 期 自  
至

工 事 場 所

契 約 金 額 　　¥

## 中 間 前 金 払 認 定 調 書

契約の相手方	住所 氏名
工 事 名	
工 事 場 所	
工 期	年 月 日から 年 月 日まで
契 約 金 額	円
摘 要	
<p>上記の工事についてはその進捗を調査したところ、中間前金払をすることができる要件を具備していることを認定する。</p> <p>年 月 日</p> <p>福岡市博多区博多駅前一丁目28番15号 福岡市水道事業管理者</p> <p style="text-align: right;">印</p>	

様式－5(1)

課長	総括監督員	監督員

年月日：

請求書 ( )

(発注者)  
福岡市水道事業管理者 殿

請求者 (住所)

(氏名)

下記のとおり請求します。

請求金額 

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

  
(金額の記載は、アラビア数字を用いその頭部に「¥」を記入してください。)

ただし、次の工事の( )として

工事名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

希望する支払方法に  を記入してください。

- 口座振込を希望します。  
(本市に2つ以上口座を登録されている方は、以下に振込を希望する口座をご記入ください。)

振込希望金融機関名 \_\_\_\_\_ ○銀行 ○金庫 \_\_\_\_\_ 店

預金の種別 \_\_\_\_\_

口座番号 \_\_\_\_\_

口座名義 \_\_\_\_\_

フリガナ \_\_\_\_\_

(記入する口座は請求者名義のものに限ります。また、口座名義等の記入にあたっては、必ず預金通帳と確認のうえ、記載のとおり正確に記入してください。)

- 現金受領を希望します。
- 隔地払 (外国送金等) を希望します。

(注) ( ) には前払金、中間前払金、部分払金、指定部分完済払金、完成代金の別を記入すること。

前払金、中間前払金を請求する場合は、下記の請求金額確認欄に記入すること。

契 約 金 額	円	(A)
前 金 等 の 率	%	
支 払 可 能 額	円	
前 金 等 請 求 額	円	(B) 今回請求額
支 払 済 の 前 金 払 の 額	円	(C)
支 払 済 の 前 金 払 の 率	%	
前 金 等 の 支 払 額	円	【(B)+(C) ≤ (A)×60%】

様式－16

課長	総括監督員	監督員

年月日：

(発注者)

福岡市水道事業管理者 殿

(受注者)

## 指 定 部 分 完 成 通 知 書

下記工事の指定部分は、 年 月 日 をもって完成したので工事請負  
契約書第31条第1項に基づき通知します。

記

工事名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工 期 自 至

請負代金額 円

指定部分工期 自 至

指定部分に対する請負代金額 円

様式－17

年月日：

(発注者)

福岡市水道事業管理者 殿

(受注者)

## 指 定 部 分 引 渡 書

下記工事の指定部分を工事請負契約書第39条第1項に基づき引渡します。

工 事 名	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事
指 定 部 分	
全 体 工 期	自 至
指定部分に係る工期	自 至
請 負 代 金 額	¥
指定部分に係る請負 代金額	¥
指定部分に係る検査 年月日	

年 月 日

引受人

印

立会人

印

部分払申請書

課		
課長	係長	係員

令和 年 月 日

(宛先) 福岡市水道事業管理者

受注者

住所

氏名

⑩

## 部分払申請書

下記工事について、部分払いを受けたいので、 月 日までの出来形  
部分等の確認検査をお願いします。

1 契約件名

2 履行場所

3 履行期間 令和 年 月 日から

令和 年 月 日まで



既 済 部 分 明 細 書

起工番号	工 期 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで				課			課			
					課長	係長	係員	課長	係長	係員	
① 工 事 名					摘    要	前回迄の火災保険金額（土木 工事を除く。）					
② 設 計 金 額				※							
③ 請 負 金 額				※							
④ 設計単価に基 づく出来高金額											
⑤ 今回までの 出来高金額	③ / ② × ④										

注) 金額を変更した場合、※欄に当初金額を記入し、  
⑤の③及び②については、その税込み金額とする。

(A 4 横型とする)

部分払金計算書を添付（別途ファイル参照）

設 計 内 容						出 来 高			備 考
種 別	形状寸法	数量	単位	単 価	金 額	数量	金 額	%	

※ 建築，設備工事については設計書を代用

(A 4 横型とする)

## 部分払金計算書

		令和 年度 ( 回目)				
		令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで				
年 度		令和 年度	令和 年度	令和 年度	計	
A	年度別出来高予定金額 (請負代金額)	円	円	円	円	
B	年度別支払予定金額	円	円	円	円	
既 支 払 状 況	C1前払金額	円	円	円	円	
	C2中間前払金額	円	円	円	円	
	D前金率(C1+C2)/A	%	%	%		
	E 部分 払 支 払 金 額	1 回目	円	円	円	円
		2 回目	円	円	円	
3 回目		円	円	円		
合 計		円	円	円		
F	支払総額 (C1+C2+E)	円	円	円	円	
G	年度別請負代金残額 (B-F)	円	円	円	円	
H	前回まで支払の対象と なった出来高金額(E/K)	円	円	円		
I	今回までの出来高金額	円	円	円	今回までの出来高に 対する火災保険加入金額  円	
J	今回の出来高金額 (I - H)	円	円	円		
K	出来高支払可能率 (90% - D)	%	%	%		
L	支払可能金額 (J × K)	円	円	円		
M	今回の支払金額 (千円未満切捨)	円	円	円	円	
N	差引年度別請負代金 残額 (G - M)	円	円	円	円	
備考						

## 部分払金計算書

令和 年度 ( 回目)

(年度末)

履行期間		令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで				
年 度		令和 年度	令和 年度	令和 年度	計	
A 年度別出来高予定金額 (請負代金額)		円	円	円	円	
B 年度別支払予定金額		円	円	円	円	
既 支 払 状 況	C1前払金額	円	円	円	円	
	C2中間前払金額	円	円	円	円	
	D前金率(C1+C2)/A		%	%	%	
	E 部 分 払 支 払 金 額	1回目	円	円	円	
		2回目	円	円	円	
		3回目	円	円	円	
合計		円	円	円	円	
F 支 払 総 額 (C1+C2+E)		円	円	円	円	
G 年度別請負代金残額 (B-F)		円	円	円	円	
H 前回まで支払の対象と なった出来高金額(E/90)		円	円	円		
I 今回までの出来高金額		円	円	円	今回までの出来高に 対する火災保険加入金額 円	
J I×90%		円	円	円		
K 支払可能金額 (J-F)		円	円	円		
L 今回の支払金額 (千円未満切捨)		円	円	円	円	
M 差引年度別請負代金 残 額 (G-L)		円	円	円	円	
備考						



中間確認検査依頼について（発注課用）

課		
課長	係長	係員

令和      年      月      日

総務部契約課長様

課長

### 中間確認検査依頼について

- 1 契 約 件 名
- 2 履 行 場 所
- 3 履 行 期 間
- 4 受 注 者
- 5 検 査 項 目 ・ 内 容
- 6 検 査 希 望 日

上記契約につきましては，次の理由により，別紙添付図面等  
又は上記項目・内容の中間確認検査を依頼します。

理      由

---



---



---



---



---

様式－ 2 2

課長	総括監督員	監督員

年月日：

受信者： 殿

発信者：

## 工事の部分使用について

標記について、下記のとおり部分使用することを、工事請負契約書第33条第1項に基づき（ 協議 ・ 承諾 ）する。

記

1. 使用目的
2. 使用部分
3. 使用期間 自  
至
4. 使用者
5. その他

- 
- (注) 1. (協議・承諾) には、いずれかに印をつける。  
 2. 協議の場合は、受信者を「受注者名」、発信者を「福岡市水道事業管理者」として、発注者が作成する。  
 3. 承諾の場合は、受信者を『福岡市水道事業管理者』、発信者を「受注者名」として、受注者が作成する。



(様式 2-5)

## 設計変更事由書

変更事由	理由
概算金額	約 ○○ 万円 増 (直工)
※ 工種, 名称, 形状, 寸法等を記入して下さい。	





建退共事務受託様式2号

建退共制度に係る被共済者就労状況報告書  
(兼建設業退職金共済証紙交付依頼書)

整理番号

令和 年 月 日

元請  
事業所

殿

下請事業所

住 所  
共済契約者  
番 号

工 事 名

工事コード

以下のとおり報告します。

記

期 間 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日

被共済者数 人 延べ就労日数 日

現場責任者確認

印

## 建設業退職金共済証紙受領書

整理番号

元請  
事業所

殿

1日券 枚

10日券 枚

上記の共済証紙を受領いたしました。

令和 年 月 日

下請事業所

印



様式－29

課長	総括監督員	監督員

年月日：

(発注者)

福岡市水道事業管理者 殿

(受注者)

## 完 成 通 知 書

下記工事は 年 月 日 をもって完成したので工事請負契約書  
第31条第1項に基づき通知します。

記

1. 工 事 名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事
2. 請負代金額 円
3. 契約年月日 令和○年○月○日
4. 工 期 自 至

---

(注) 本文の年月日は実際に完成した年月日を記載する

様式-30

年月日：

(発注者)  
福岡市水道事業管理者 殿

(受注者)

# 引 渡 書

下記工事を工事請負契約書第31条第4項に基づき引渡します。

1. 工事名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

2. 請負代金額 円

3. 検査年月日

年 月 日

引受人 印

立会人 印

様式-34(1)

## 工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況

工 事 名	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事		受注者名	
項 目	評価内容	実施内容		
□工事特性	□構造物の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象構造物の高さ、延長、施工(断)面積、施工震度等の規模が特殊な工事</li> <li>対象構造物の計上が複雑であることなどから、施工条件が特に変化する工事</li> <li>その他</li> </ul>		
	□都市部等の作業環境、社会条件等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地盤の変形、近接構造物、地中構造物への影響に配慮する工事</li> <li>周辺環境条件により、作業条件、工程等に大きな影響を受ける工事</li> <li>周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事</li> <li>現道上での交通規制に大きく影響する工事</li> <li>緊急時に対応が特に必要な工事</li> <li>施工箇所が広範囲にわたる工事</li> <li>その他</li> </ul>		
	□厳しい自然・地盤条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊な地盤条件への対応が必要な工事</li> <li>雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事</li> <li>急峻な地形及び土砂流危険渓流内での工事</li> <li>動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事</li> <li>その他</li> </ul>		
	□長期工事における安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事（全面一時中止期間は除く）</li> <li>その他</li> </ul>		
□創意工夫 自ら立案実施した創意工夫や技術力	□施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工に伴う器具、工具、装置等の工夫</li> <li>コンクリート二次製品等の代替材の適用</li> <li>施工方法の工夫、施工環境の改善</li> <li>仮設備計画の工夫</li> <li>施工管理の工夫</li> <li>ICT(情報通信技術)の活用 等</li> </ul>		
	□新技術活用	NETIS登録技術のうち、 <ul style="list-style-type: none"> <li>試行技術の活用</li> <li>「少実績優良技術」の活用</li> <li>「少実績優良技術」を除く「有用とされる技術」の活用</li> <li>試行技術及び「有用とされる技術」以外の新技術の活用</li> </ul>		
	□品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>土工、設備、電気の品質向上の工夫</li> <li>コンクリートの材料、打設、養生の工夫</li> <li>鉄筋、コンクリート二次製品等使用材料の工夫</li> <li>配筋、溶接作業等の工夫 等</li> </ul>		
	□安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生教育・講習会・パトロール等の工夫</li> <li>仮設備の工夫</li> <li>作業環境の改善</li> <li>交通事故防止の工夫</li> <li>環境保全の工夫 等</li> </ul>		
□社会性等 地域社会や住民に対する貢献	□地域への貢献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺環境への配慮</li> <li>現場環境の周辺地域との調和</li> <li>地域住民とのコミュニケーション</li> <li>災害時など地域への支援・行政などによる救援活動への協力</li> <li>その他</li> </ul>		

様式－ 3 4 (2)

工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況

工事名	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
項目		評価内容	
提案内容			
(説明)			
(添付図)			

説明資料は簡潔に作成するものとし、必要に応じて別紙とする  
 "一人一花運動"の花植えや除草は、それぞれについて位置・範囲(面積等)を記載。  
 (例:○○月/○○㎡、○○月/…、総面積○○○㎡)

令和 年 月 日

## 電 子 媒 体 納 品 書

様

受注者（住所）  
 （氏名）  
 （現場代理人）

下記のとおり電子媒体を納品します。

記

契約件名			契約番号	
電子媒体の種類	数量	単位	作成年月日	備考
		枚	令和〇〇年〇〇月〇〇日	

備考 1. 監督職員に提出



■技術提案等の履行確認結果表

課		
課長	係長	係員

○工事名: \_\_\_\_\_

○受注者: \_\_\_\_\_

評価項目名	提案内容	履行確認		備考
		履行	不履行	
①				
②				
③				
④				

※「提案内容」については、採用された提案(加点対象)を監督員と調整のうえ簡潔に記載してください。

※) 所見	
----------	--

※)特記すべき内容がある場合に記載

令和〇年〇月〇日

上記のとおり技術提案等の履行状況を確認しました。

所 属 : 〇〇局〇〇部〇〇課

総括監督員 : \_\_\_\_\_ 印

監督員 : \_\_\_\_\_ 印

様式1 再生資源利用実施書 ー建設資材搬入工事用ー「建設リサイクルガイドライン」、「建設リサイクル法第18条再生資源化報告」対応版

1. 工事概要 (赤着色セルは必須入力箇所です。)

Form with fields for project name, contractor, company name, address, and contact information.

Form for construction details including site name, location, and construction content.

Form for building area and floor details.

2. 建設資材利用実施

Main table for construction material utilization with columns for material type, quantity, and usage status.

コンクリートについて 1.生コン(パージン骨材) 2.再生生コン(Co再生骨材H) 3.再生生コン(Co再生骨材M) 4.再生生コン(Co再生骨材L) 5.再生生コン(その他再生骨材) 6.無筋コンクリート二次製品(パージン骨材) 7.無筋コンクリート二次製品(リユース品) 8.再生無筋コンクリート二次製品(Co再生骨材) 9.再生無筋コンクリート二次製品(その他再生骨材) 10.その他

アスファルト・コンクリートについて 1.表層 2.基層 3.上層路盤 4.歩道 5.その他(駐車場舗装、敷地内舗装等) 6.土砂について 7.道路路床 8.路床 9.河川築堤 10.構造物等の裏込材、埋戻し 11.宅地造成用 12.ほ場整備(農地整備) 13.その他

コンクリートについて 1.再生生コン(Co再生骨材H) 2.再生生コン(Co再生骨材L) 3.再生生コン(Co再生骨材M) 4.再生生コン(Co再生骨材) 5.無筋コンクリート二次製品(リユース品) 6.再生無筋コンクリート二次製品(その他再生骨材) 7.再生無筋コンクリート二次製品(Co再生骨材) 8.その他

再生資材の供給元について 1.現場内利用 2.他の工事現場(内陸) 3.他の工事現場(海面) 4.再資源化施設 5.土砂ストックヤード 6.その他

# 様式2 再生資源利用促進実施書 ー 建設副産物搬出工事用ー

1. 工事概要 表面(様式1)に必ずご記入下さい

## 2. 建設副産物搬出実施

### 裏面

建築工事において、解体と新築工事を一体的に施工する場合は、解体分と新築分の数量を区分し、それぞれ別に様式を作成して下さい。

建設副産物の種類	①発生量		現場内利用・減量		現場外搬出について				再生資源利用促進率 ②+③+⑤ ① (%)						
	場外搬出時の性状	(掘削等) =②+③+④ 小数点第三位まで	用途 コード *10	②利用量 うち現場内改良分 小数点第三位まで	③減量化 減量法 コード *11	搬出先名称 2ヶ所まで記入できます。3ヶ所以上にわたる時は、用紙を換えて下さい。	区分	加工条件の 内容 コード *12		住所コード *4	運搬距離 千 百 十 一 km	搬出先の種類 コード *13	④現場外搬出量 小数点第三位まで	うち現場内改良分 小数点第三位まで	⑤再生資源 利用促進量
資材廃棄物	コンクリート塊	0.000 トン		トン		搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
建築廃棄物	建設発生木材A (柱、巾木、床材、石膏ボード、木製部材が廃棄物となったもの)	0.000 トン		トン		搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
建設副産物	アスファルト コンクリート塊	0.000 トン		トン		搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	その他がれきり類	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	建設発生木材B (柱、木、床材、石膏ボードが廃棄物となったもの)	0.000 トン		トン		搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	建設汚泥	0.000 トン		トン		搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	金属くず	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	廃塩化ビニル管・継手	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	廃プラスチック (廃塩化ビニル管・継手を除く)	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	廃石膏ボード	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	紙くず	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	77ハイト (飛散性)	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	その他の分別された廃棄物 (混合状態の廃棄物)	0.000 トン				搬出先1 搬出先2				km		トン	トン	0.000 トン	0 %
	第一種 建設発生土	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>		搬出先1 搬出先2				km		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0 %
	第二種 建設発生土	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>		搬出先1 搬出先2				km		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0 %
	第三種 建設発生土	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>		搬出先1 搬出先2				km		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0 %
	第四種 建設発生土	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>		搬出先1 搬出先2				km		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0 %
	液状土以外の泥土	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>		搬出先1 搬出先2				km		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0 %
	浚渫土 (建設汚泥を除く)	0.000 地山m <sup>3</sup>		地山m <sup>3</sup>		搬出先1 搬出先2				km		地山m <sup>3</sup>	地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0 %
	合計	0.000 地山m <sup>3</sup>		0.000 地山m <sup>3</sup>		搬出先1 搬出先2				km		0.000 地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0.000 地山m <sup>3</sup>	0 %

【建設発生土の場合】

1. 売却  
2. 他の工事現場(内陸)  
3. 他の工事現場(海面)  
ただし、廃棄物最終処分場を除く  
4. 土質改良プラント  
5. 工事予定地・仮置場・ストックヤード  
(再利用の目的がある場合)  
※ 6.9.10へ搬出した場合は、有効利用とみなされません。

【建設副産物の場合】

1. 売却  
2. 他の工事現場  
3. 広域認定制度(アスファルト合材プラント)  
4. 中間処理施設(合材プラント以外の再資源化施設)  
5. 中間処理施設(サーマルリサイクル)  
6. 中間処理施設(単焼却)

【建設発生土の場合】

1. 売却  
2. 他の工事現場(内陸)  
3. 他の工事現場(海面)  
4. 土質改良プラント  
5. 工事予定地・仮置場・ストックヤード  
(再利用の目的がある場合)  
※ 6.9.10へ搬出した場合は、有効利用とみなされません。

【建設発生土の場合】

1. 売却  
2. 他の工事現場(内陸)  
3. 他の工事現場(海面)  
4. 土質改良プラント  
5. 工事予定地・仮置場・ストックヤード  
(再利用の目的がある場合)  
※ 6.9.10へ搬出した場合は、有効利用とみなされません。

注記) 一般廃棄物は記入しないで下さい。  
・ 土壌汚染対策法に基づき処理する土壌は記入しないで下さい。

コード\*10  
1. 盛土  
2. 裏込材  
3. 埋戻し材  
4. その他

コード\*11  
1. 焼却  
2. 脱水  
3. 天日乾燥  
4. その他

コード\*12  
施工条件について  
1. A指定処分  
(※注時に指定されたもの)  
2. B指定処分(もしくは準指定処分)  
(※注時には指定されていないが、  
※注後に設計変更し指定処分とされたもの)  
3. 自由処分

コード\*13  
【建設副産物の場合】  
1. 売却  
2. 他の工事現場  
3. 広域認定制度(アスファルト合材プラント)  
4. 中間処理施設(合材プラント以外の再資源化施設)  
5. 中間処理施設(サーマルリサイクル)  
6. 中間処理施設(単焼却)

【建設発生土の場合】  
1. 売却  
2. 他の工事現場(内陸)  
3. 他の工事現場(海面)  
ただし、廃棄物最終処分場を除く  
4. 土質改良プラント  
5. 工事予定地・仮置場・ストックヤード  
(再利用の目的がある場合)  
※ 6.9.10へ搬出した場合は、有効利用とみなされません。































































出 来 形 管 理 表

出 来 形 管 理 表																		
工 事 名							工 種											
測 点 (番号)	項 目																	
	規 格 値																	
測 点 (番号)	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差			
	計			計			計			計			計					
	平 均			平 均			平 均			平 均			平 均					



出 来 形 管 理 表

工 事 名							工種	土 工 (管布設) 路床工 (埋戻し工)						口径φ	mm	
項目	掘削幅 B			掘削深さ H			埋戻し天端深さ h			延長 L						
	-50 mm			-30 mm			+40 mm			-0 mm						
測 点 (番号)	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	
計	計			計			計			計			計			
平均	平均			平均			平均			平均			平均			

出 来 形 管 理 表

工 事 名								工 種	管 布 設 ・ 標 識 テ ー プ 設 置 工			口 径 φ      mm		
測 点 (番号)	項 目	土 被 り h			深 さ h1			深 さ h2			中 心 の ず れ a			
	規 格 値 (mm)	+50 -30			±50			±50			±100			
	(mm)	実 測 値	設 計 値	差	実 測 値	設 計 値	差	実 測 値	設 計 値	差	実 測 値	設 計 値	差	
		計			計			計			計			
		平 均			平 均			平 均			平 均			









出 来 形 管 理 表

工 事 名					工種	特殊排気弁・空気弁・仕切弁							
測 点 (番号)	項 目	形 式	本管口径	弁栓口径	特 殊 排 気 弁 (GLからの深さh)			空 気 弁 (GLからの深さh)			仕 切 弁 (GLからの深さh)		
	規格値 (mm)	_____	_____	_____	基準値 150~300			基準値 150~300			+50 -20		
	(mm)	_____	_____	_____	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差
記 事					計			計			計		
					平均			平均			平均		

出 来 形 管 理 表

工 事 名					工 種	青銅仕切弁・止水	
測 点 (番号)	項 目	青銅仕切弁 (GLからの深さh)			止水 (GLからの深さh)		
	規格値 (mm)	±30			±30		
	(mm)	基準値 ( )	実測値	差	基準値 (300)	実測値	差
記 事		計			計		
		平均			平均		



出 来 形 管 理 表

工 事 名								工種	路盤工 (厚さ)								
測 点 (番号)	項 目	車道下層路盤工 (厚さ)			車道上層路盤工 (厚さ)			歩道路盤工 (厚さ)									
	規格値 (mm)	-45			-30			t < 15 cm -30 t ≥ 15 cm -45									
	(mm)	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	
		計			計			計			計			計			
		平均			平均			平均			平均			平均			

出 来 形 管 理 表

工 事 名								工種	アスファルト表層工 (幅)								
測 点 (番号)	項 目	車道表層工 (幅)			車道中間層工 (幅)			車道中間層工 (幅)			車道基層工 (幅)			歩道表層工 (幅)			
	規格値 (mm)	-25			-25			-25			-25			-25			
	(mm)	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	
記 事		計			計			計			計			計			
		平均			平均			平均			平均			平均			

出 来 形 管 理 表

工 事 名								工 種		塗 装 工						
測 点 (番号)	項 目	外 面 塗 装 (アスファルトビニロンクロス)			外面塗装 (塗料) 下塗			外面塗装 (塗料) 中塗			外面塗装 (塗料) 上塗			内 面 塗 装		
	規格値 (mm)	-0			目標塗膜厚の75%以上			目標塗膜厚の75%以上			目標塗膜厚の75%以上			-0		
	(mm)	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差
記 事		計			計			計			計			計		
		平均			平均			平均			平均			平均		

出 来 形 管 理 表

工 事 名								工 種		塗 装 工						
測 点 (番号)	項 目	外面塗装 (塗料) 下塗			外面塗装 (塗料) 中塗			外面塗装 (塗料) 上塗			内 面 塗 装					
	規格値 (mm)	目標塗膜厚の75%以上			目標塗膜厚の75%以上			目標塗膜厚の75%以上			-0					
	(mm)	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差	実測値	設計値	差
記 事	計															
	平均															

出 来 形 管 理 図

工 事 名		工 種	
名 称			
番 号			
月 日			
+	[ 5 mm の方眼・点線 ]		
0			
-			
設計値との差(単位)			
記事及び監督員の印			

- 注
1. 工種は、土工、路盤工、側工、石積工などを記入すること。
  2. 名称は、基準高、厚幅、高さ、長さなどを記入すること。
  3. 番号は、予め測点を定め、起点から終点に向かった順序に記入しておくこと。
  4. 月日は、当該測点実測の月日を記入すること。
  5. 撰家位置との差の単位を定め、目盛りに数値を記入すること。
  6. 図表に許容範囲の線を朱書きで記入すること。
  7. 記事は、手直しの序値などを記入し、承認印を押すこと。



路 盤 工 管 理 図

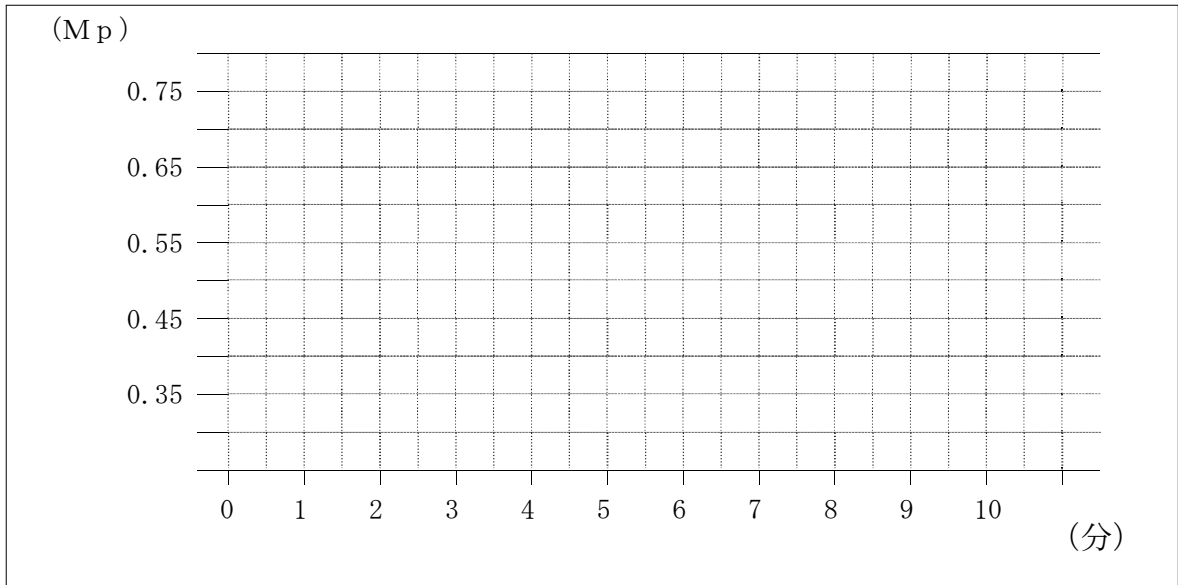
工 事 名											
路盤工タイプ	使用材料	上層路盤材 (再生粒調碎石 RM-25)									
		下層路盤材 (再生クラッシャーラン RC-40)									
	測点	No.									
	回										
上層(密度路試験)工	%										
	95										
下層(密度路試験)工	%										
	95										
番 号											
月 日											





通 水 試 験 工 管 理 図

工 事 名			
管理・呼径	φ	測点No.	~
通水試験実施責任者			
試 験 結 果	合 ・ 否 (理由: )		



備 考

1. 試験方法

0.75Mpに加圧した後、5分間保持して圧力の低下が20%以内の時が合格とする。ただし、20%以内であっても、圧力の変化が継続して発生しているときは、10分間に延長して確認する。

一般に管路水圧試験では、次のような原因で漏水のない場合でもある程度の圧力低下は避けられない。

- (a) モルタルライニングの吸水
- (b) 残留空気の水への溶解
- (c) 水圧による異形管部の微移動
- (d) 水温の変化、管体の膨張、その他

これらのことから、試験の可否は試験を行う管路の口径や延長など諸条件を総合的に考慮して判断すること。

2. 試験中の確認項目

- (a) 空気弁、消火栓からの漏れ
- (b) 両端の栓からの漏れ
- (c) 管路の異常の有無

3. その他

自圧において通水試験を行うときの試験時間は、自記録水圧計を使用し原則として24時間行うこと。また、試験結果が記録された自記録水圧測定記録用紙を提出すること。

図面番号			
試験年月日	平成	年	月 日 ( )

# K形継手チェックシート

施工年月日

年 月 日

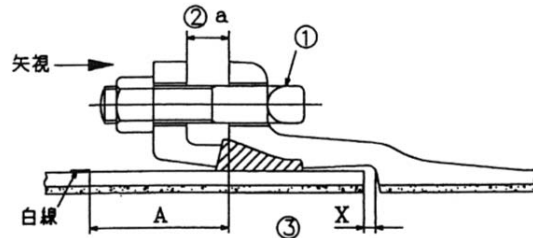
継手責任者

工事名

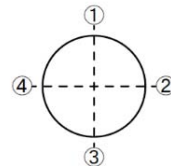
管種・呼び径

K形・φ

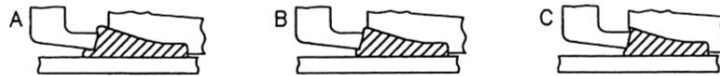
図面No.



測定箇所



④ ゴム輪の出入り状態



管体 No.

略 図

継手 No.

清 掃

滑 剤

①  
ボルト

数  
トルク  
(N・m)

②  
押輪－受口端面  
間隔(a)

①  
②  
③  
④

③  
受口端面－白線の  
間隔(A)または  
胴付間隔(X)

①  
②  
③  
④

④  
ゴム輪の出入り状態

①  
②  
③  
④

判 定

測定箇所: 全箇所測定(測定が困難な場合は、測定箇所をずらし、対角に4箇所測定すること。)

### 判定基準

② 押輪－受口端面間隔(a)

: 最大値－最小値 ≤ 5mm (同一円周上)

③ 受口端面－白線の間隔(A)

: 呼び径 75～250mm A ≤ 95mm

: 呼び径 300～700mm A ≤ 107mm

または胴付間隔(X)

: X ≤ 下記表に定める許容胴付間隔

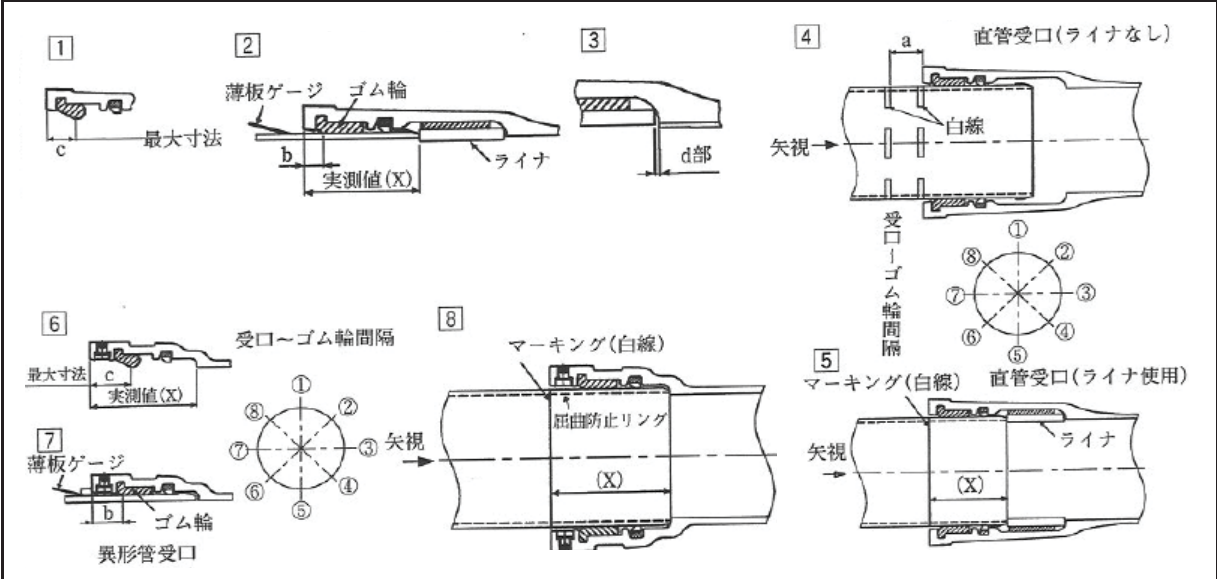
呼び径 (mm)	X (mm)	呼び径 (mm)	X (mm)
75～250	20	2000	53
300～900	32	2100	55
1000～1500	36	2200	58
1600	43	2400	63
1650	45	2600	71
1800	48		

④ ゴム輪の出入り状態

: 同一円周上でA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

<h1>NS形継手チェックシート (φ75～φ250)</h1>	施工年月日	年 月 日
	継手責任者	

工事名			
管種・呼び径	NS形・φ	図面No.	



管体 No.									
管の種類									
略図/ライナ									
継手 No.									—
清掃剤									—
受口溝(ロッキング)の確認									—
受口面～ゴム輪の最大寸法(c)									[1] [6]
受口面～ゴム輪 間隔(b)	全周チェック								
	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
	⑦								
受口面～白線 間隔(a)	①								
	③								[4]
	⑤								
	⑦								
ライナ位置の確認(d部) ※1									[3]
マーキング(白線)位置の確認 ※2									[5] [8]
屈曲防止リングの確認 ※3									[8]
判定									

測定箇所: 受口面～ゴム輪(b)は、8箇所のうち①③⑤⑦もしくは②④⑥⑧のどちらか4箇所を測定すること。

**判定基準**

- 受口面～ゴム輪間隔(b) < 受口面～ゴム輪の最大寸法(c)
- ※1 ライナが受口奥部に当たっていることを、4.5mmの隙間ゲージにて確認する。
- ※2 接合直後に、マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
- ※3 屈曲防止リングと挿し口外面に薄板ゲージが入らないこと。

# NS形継手チェックシート (φ300~φ450)

施工年月日

年 月 日

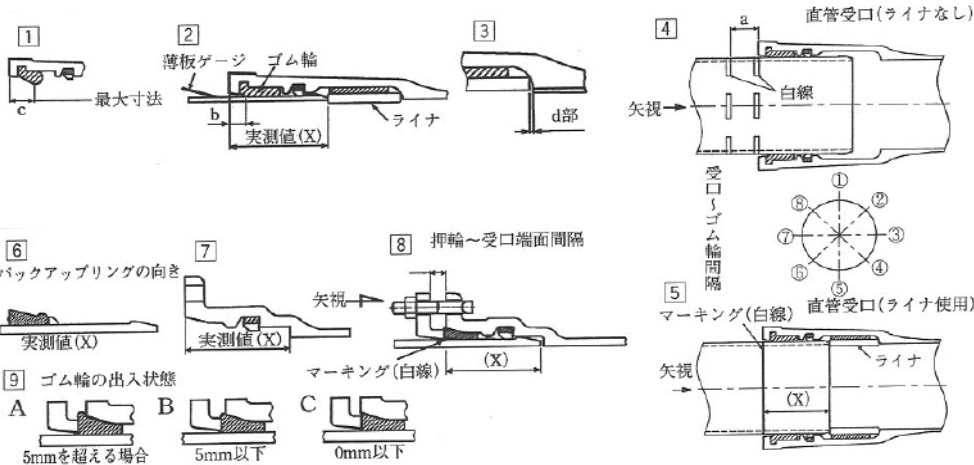
継手責任者

工事名

管種・呼び径

NS形・φ

図面No.



管体 No.									
管の種類									
略図/ライナ									
継手 No.									—
清掃剤									—
受口溝(ロックリング)の確認									—
バックアップリングの向き ※3									6
受口面~ゴム輪の最大寸法(c)									1
受口面~ゴム輪 間隔(b) (mm)	全周チェック								2
	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
	⑦								
ボルト	数								—
	トルクN・m								—
押輪~受口 間隔 ※4 (mm)	①								8
	③								
	⑤								
	⑦								
受口端面~白線 間隔(a) (mm)	①								4
	③								
	⑤								
	⑦								
ゴム輪の出入状態 ※5	①								9
	③								
	⑤								
	⑦								
ライナ位置の確認(d部) ※1									3
マーキング(白線)位置の確認 ※2									5 8
判定									—

測定箇所: 受口面~ゴム輪(b)は、8箇所のうち①③⑤⑦もしくは②④⑥⑧のどちらか4箇所を測定すること。

### 判定基準

受口面~ゴム輪間隔(b) < 受口面~ゴム輪の最大寸法(c)

※1 ライナが受口奥部に当たっていることを、4.5mmの隙間ゲージにて確認する。

※2 接合後に、マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。

※3 バックアップリングの向き: テーパー部は挿し口端面側、切断部は受口内面切欠き部をさけた位置にあること。

※4 押輪~受口間隔: 最大値-最小値 ≤ 5mm (同一円周上)。

※5 ゴム輪の出入状況: 同一円周上にA、Cまたは、A、B、Cが同時に存在しないこと。

# NS形継手チェックシート (φ500~φ1000)

施工年月日

年 月 日

継手責任者

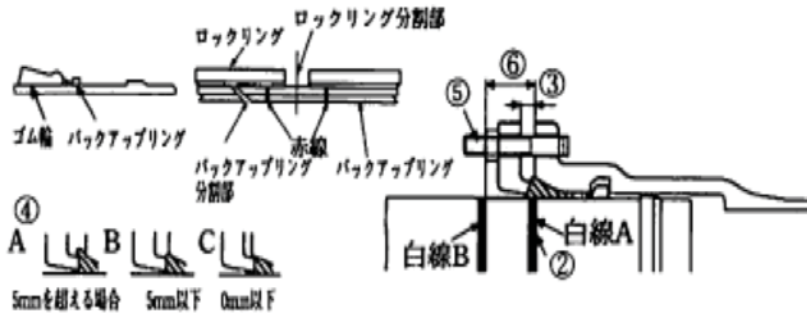
工事名

管種・呼び径

NS形・φ

図面No.

## ①バックアップリングの向き、分割部の位置



単位mm

呼び径	X
500	31
600	31
700	32
800	32
900	32
1000	33

管No.および形状

略 図

清 掃

滑 剤

受挿し隙間の調整

押輪分割部の上下配置

①バックアップリングの向き、分割部の位置

(1)

(2)

②挿入量確認

上

右

下

左

③押輪～受口間隔

上

右

下

左

④ゴム輪の出入状態

上

右

下

左

めくれ

⑤ボルト

数

トルクN・m

⑥白線B～受口間隔

上

右

下

左

判 定

### 判定基準

①バックアップリングの向き、分割部の位置

(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。

(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

②挿入量の確認：白線Aの中に受口端面があること。

③押輪～受口間隔：最大値-最小値 $\leq$ 5mm(同一円周上)。

④ゴム輪の出入状態

(1)同一円周上にA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

(2)ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態が存在しないこと。

⑥白線B～受口間隔：最大値-最小値 $\leq$ X(X:上表参照)

# NS形継手チェックシート (φ500~φ1000 ライナ使用、異形管)

施工年月日

年 月 日

継手責任者

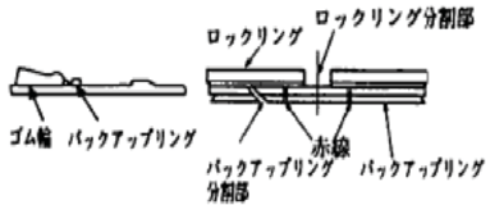
工 事 名

管種・呼び径

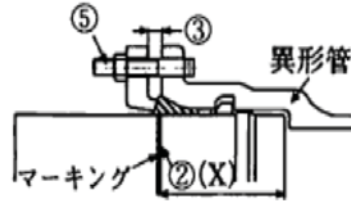
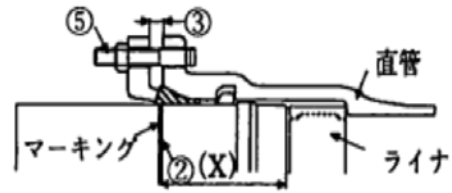
NS形 ・ φ

図面No.

## ①バックアップリングの向き、分割部の位置



## ④



管No.および形状

略 図

清 掃

滑 剤

抜け出しチェック

受挿し隙間の調整

押輪分割部の上下配置

①バックアップリングの向き、分割部の位置

(1)

(2)

②挿入位置の確認

上

右

下

左

③押輪～受口間隔

上

右

下

左

④ゴム輪の出入状態

上

右

下

左

めくれ

⑤ボルト

数

トルクN・m

判 定

### 判定基準

①バックアップリングの向き、分割部の位置

(1) バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。

(2) バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

②挿入位置の確認：現場で明示した白線上に受口端面があること。

③押輪～受口間隔：最大値－最小値 ≤ 5mm (同一円周上)。

④ゴム輪の出入状態

(1) 同一円周上にA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

(2) ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態が存在しないこと。

# NS形継ぎ輪チェックシート

施工年月日

年 月 日

継手責任者

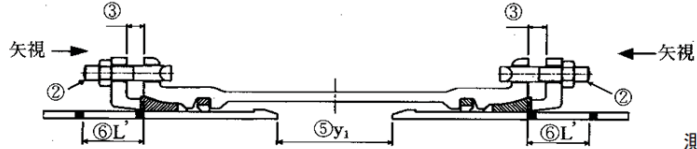
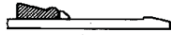
工事名

管種・呼び径

NS形・φ

図面No.

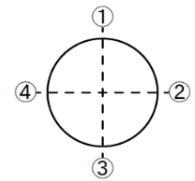
①バックアップリングの向き



④ゴム輪の出入状態



測定箇所



管体 No.

略 図

継手 No.

清 掃

滑 剤

受口溝(ロック)の確認

①バックアップリングの向き

②ボルト

数

トルク

(N・m)

③押輪～受口間隔

①

②

③

④

④ゴム輪の出入状況

①

②

③

④

⑤両挿し口端の間隔(y1)

①

②

③

④

⑥L' 受口端面～白線の間隔

①

②

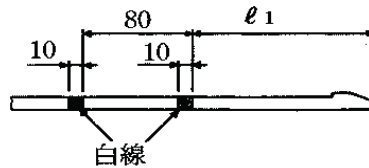
③

④

判 定

備考

1. 白線表示の位置



2. 両挿し口端間隔(y1)

単位 mm

呼び径	y1
75,100	220
150~250	250
300~450	300

単位 mm

呼び径	Q1
75	165
100	170
150	195
200	195
250	195
300	230
350	240
400	240
450	245

3. L' 寸法(y1の場合)

単位 mm

呼び径	75	100	150~250
L'	80	85	100
呼び径	300	350,400	450
L'	150	160	165

測定箇所: 全箇所測定(測定が困難な場合は、測定箇所をずらし、対角に4箇所測定すること。)

判定基準

①バックアップリングの向き: テーパー部が挿し口端面側にあること。

③押輪～受口間隔: 最大値－最小値 ≤ 5mm(同一円周上)

④ゴム輪の出入状況: 同一円周上でA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

注) ⑤は、一方から配管する場合には記入不要。⑥は、せめ配管の場合には記入不要。

# NS形継輪チェックシート (φ500~φ1000)

施工年月日

年 月 日

継手責任者

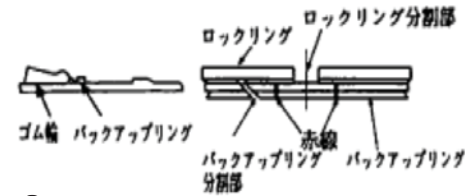
工 事 名

管種・呼び径

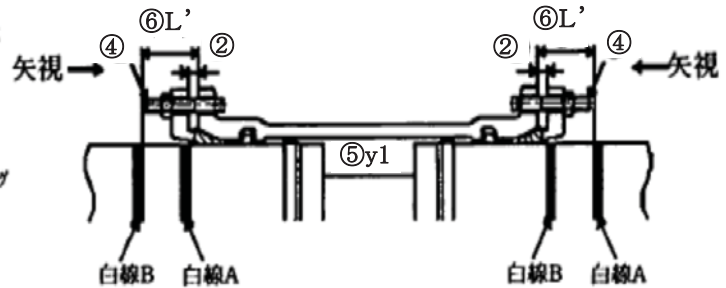
NS形・φ

図面No.

## ① バックアップリングの向き、分割部の位置



## ③



管No.および形状

略 図

清 掃

滑 剤

受挿し隙間の調整

押輪分割部の上下配置

①バックアップリングの

向き、分割部の位置

(1)

(2)

② 押輪～受口間隔

上

右

下

左

③ ゴム輪の出入状態

上

右

下

左

めくれ

④ボルト

数

トルクN・m

⑤ 両挿し口端の間隔(y1)

上

右

下

左

⑥L'

受口端面～白線の間隔

上

右

下

左

判 定

## 備考

1. 白線表示の位置



単位mm

呼び径	ℓ <sub>1</sub>
500	220
600	220
700	257
800	265
900	265
1000	268

2. 両挿し口端間隔(y1)

およびL'寸法(y1の場合)

単位mm

呼び径	y <sub>1</sub>	L'
500	260	105
600	260	105
700	300	87
800	305	98
900	305	98
1000	310	103

## 判定基準

①バックアップリングの向き、分割部の位置

(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。

(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

②押輪～受口間隔：最大値-最小値≤5mm(同一円周上)。

③ゴム輪の出入状態

(1)同一円周上にA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

(2)ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態が存在しないこと。

注) 両挿し口の間隔(y1)は、一方から配管する場合には記入不要。

L' (受口端面～白線の間隔)は、せめ配管の場合には記入不要。



# GX形継手 チェックシート(直管・P-Link)

施工年月日  
継手責任者

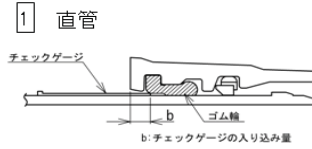
年 月 日

工 事 名

管種・呼び径

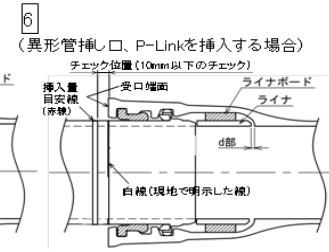
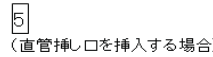
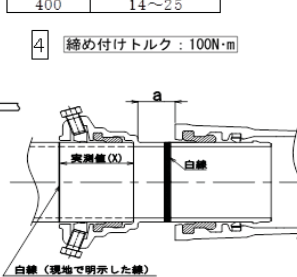
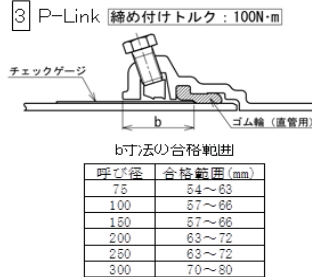
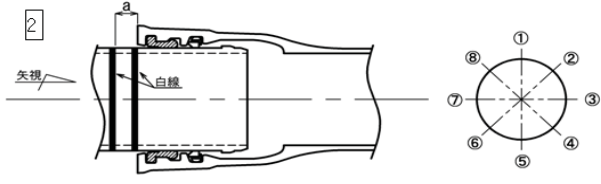
GX形・φ

図面No.



b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	8~18
100	8~18
150	11~21
200	11~21
250	11~21
300	14~24
400	14~25



管 No.							
管の種類							
略図/ライナ							
継手 No.							
挿し口突部の有無							—
清掃・異物の除去							—
ライナの位置確認(d部)※1							5
受口溝(ロッキング)の確認							—
挿し口の挿入量の明示							4 5
爪、押しボルトの確認(P-Link)							—
ゴム輪							—
滑 剤							—
マーキング(白線)位置の確認※2							4 5
挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離の確認(異形管挿し口)※3							6
マーキング(白線)の明示(異形管挿し口)※4							6
受口端面～ゴム輪 間隔(b)※6	全周チェック ※5						
	①						
	②						
	③						1
	④						3
	⑤						
	⑥						
	⑦						
受口端面～白線 間隔(a) <sup>注)</sup>	②						2
	④						
	⑥						4
	⑧						
押しボルト	本数						
	トルク確認						4
判 定							
備 考							

測定箇所 受口端面～ゴム輪間隔(b)は、8箇所のうち①③⑤⑦もしくは②④⑥⑧のいずれか4箇所を測定する。

判定基準 : ※1 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。  
 ※2 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。  
 ※3 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。  
 ※4 挿し口外周～受口端面位置の白線を表示したか確認する。  
 ※5 全周にわたってb寸法が合格範囲に入っていれば「○」を記入する。また、2°以内まで曲げた管の挿入で、チェックゲージが入らない時は、『—』と記載する。  
 ※6 受口端面～ゴム輪間隔(b)が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載(『—』と記載)する。

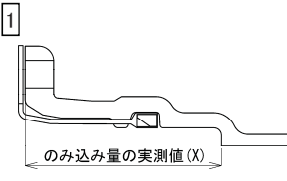
注) P-Linkの場合は受口端面からの直部長さ [4] a寸法を記入する。

備 考 \* 該当する項目が無いときは、斜線を引くこと。

GX形継手 チェックシート(異形管・G-Link)		施工年月日	年 月 日
		継手責任者	
工 事 名			
管種・呼び径	GX形・φ	図面No.	

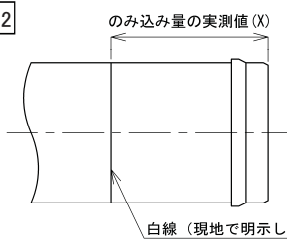
  

**1**



のみ込み量の実測値(X)

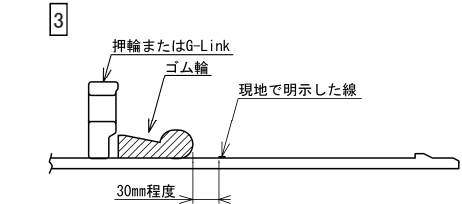
**2**



のみ込み量の実測値(X)

白線(現地で明示した線)

**3**



押輪またはG-Link

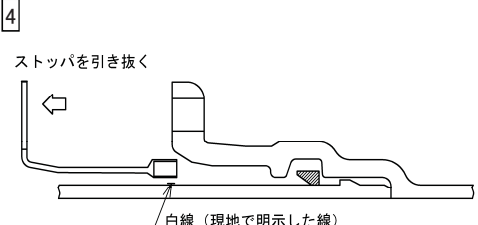
ゴム輪

30mm程度

現地で明示した線

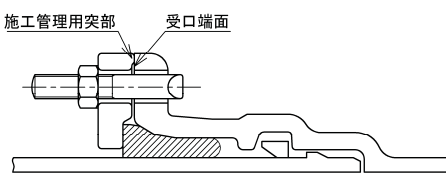
**4**



ストッパを引き抜く

白線(現地で明示した線)

**5**



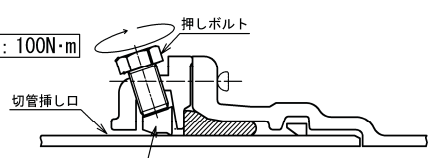
施工管理用突部

受口端面

**6** G-Linkを使用する場合

締め付けトルク：100N・m



押しボルト

切管挿し口

爪

判定基準 ※1 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

注) 挿し口突部のない挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

備 考 \* 該当する項目が無いときは、斜線を引くこと。

# GX形継手 継ぎ輪チェックシート

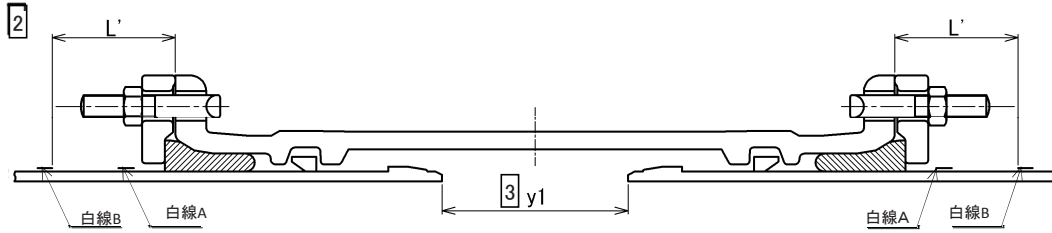
施工年月日 年 月 日  
継手責任者

工 事 名

管種・呼び径

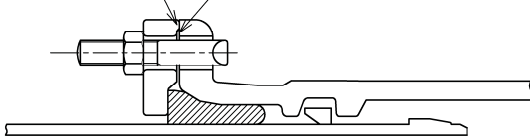
GX形・φ

図面No.

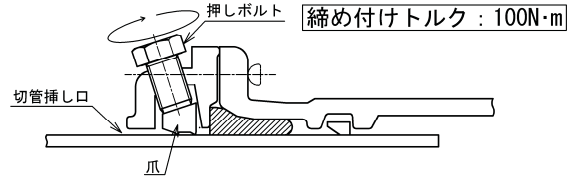


4

施工管理用突部 受口端面



5 G-Linkを使用する場合



管 No.

管の種類

略図

継 手 No.

挿し口突部の有無<sup>注1)</sup>

清 掃・異物の除去

白線A,Bの明示

爪、押ボルトの確認(G-Link)

ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認

滑 剤

ロックリング、ストップの確認

ストップの引き抜き

受口端面～  
白線の間隔  
(L')<sup>注2)</sup>

両挿し口端の  
間隔  
(y1)<sup>注2)</sup>

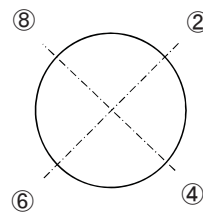
T頭ボルト

受口端面～  
施工管理用突部  
の間隔 ※

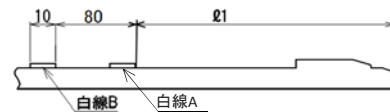
押しボルト

判 定

備 考



1



呼び径	単位mm φ1+80
75	240
100	245
150	265
200	275
250	275
300	305
400	320

(i) 一方から順次配管していく場合

呼び径	単位mm L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135
400	150

(ii) せめ配管の場合

呼び径	単位mm y1
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
400	300

判定基準 ※ 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

注1) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。  
注2) 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合にはy1寸法を記入すること。

備 考 \* 該当する項目が無いときは、斜線を引くこと。

# S形継手チェックシート

施工年月日

年 月 日

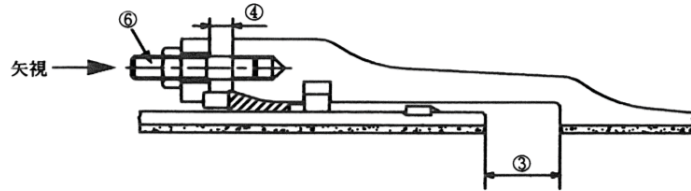
継手責任者

工事名

管種・呼び径

S形・φ

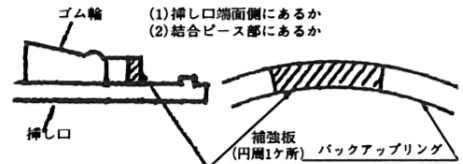
図面No.



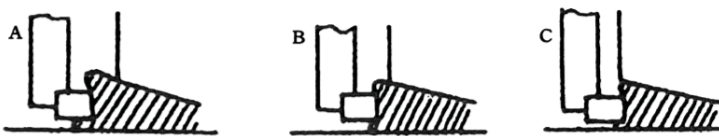
①ピースⅢ間隔

②バックアップリングの補強板

- (1) 挿し口端面側にあるか
- (2) 結合ピース部にあるか



⑤ゴム輪の出入状態



管体 No.

略 図

継手 No.

清 掃

滑 剤

①ピースⅢ間隔

ロックリング  
と挿し口外面  
のすき間 < 1mm

②B・R補強板の位置

③  
胴付間隔 (Y)

④  
押輪－受口間隔

⑤  
ゴム輪の出入状態

⑥  
ボルト

判 定

測定箇所: 全箇所測定(測定が困難な場合は、測定箇所をずらし、対角に4箇所測定すること。)

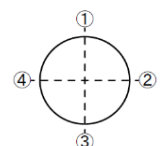
判定基準

①ピースⅢ間隔 : 1.5~2mm

④押輪－受口間隔 : 最大値－最小値 ≤ 5mm (同一円周上)

⑤ゴム輪の出入状態: 同一円周上でA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。

測定箇所



# U(U-D)形継手チェックシート

施工年月日

年 月 日

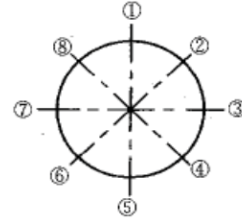
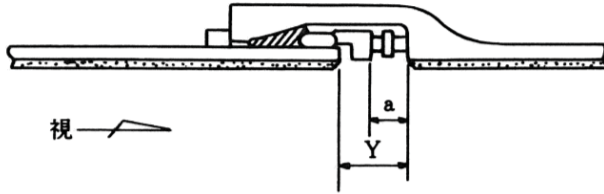
継手責任者

工 事 名

管種・呼び径

U形・φ

図面No.



(注) 呼び径1500mm以下の場合は  
1、3、5、7の4ヵ所とする

管 体 No.

略 図

継手 No.

清 掃

滑 剤

留め金具

(a)  
受口底部一押輪間隔  
または締め付けトルク

(Y)  
受口底部一挿し口間隔  
(胴付間隔)

判 定

測定箇所: 全箇所測定(呼び径1500mm以下の場合は、8箇所のうち①③⑤⑦もしくは②④⑥⑧のどちらか4箇所を測定すること。)

# UF(UF-D)形継手チェックシート

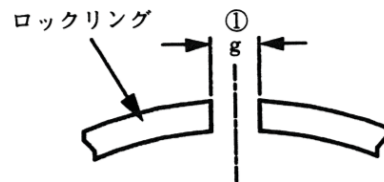
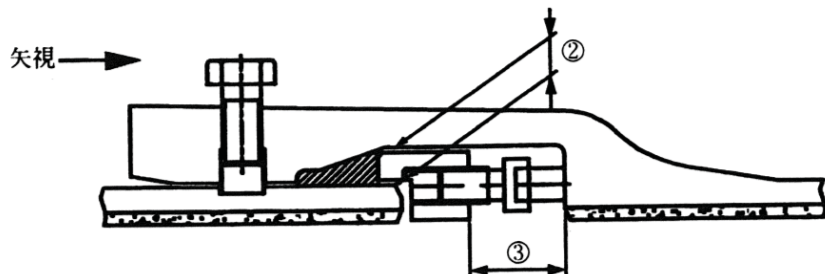
施工年月日 年 月 日  
 継手責任者

工事名

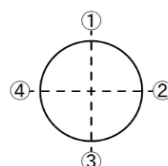
管種・呼び径

UF形・φ

図面No.



測定箇所



管体 No.

略 図

継手 No.

清 掃

滑 剤

留め金具

① ロックリングの間隔(g)	g <sub>1</sub>									
	g <sub>2</sub>									
② 受口-挿し口すき間	①									
	②									
	③									
	④									
③ 受口底部-押輪間隔 または 締め付けトルク	①									
	②									
	③									
	④									
判 定										

測定箇所: 全箇所測定

判定基準

①ロックリングの間隔(g) :  $g_2 \leq g_1$

# US(US-D)形継手チェックシート

施工年月日

年 月 日

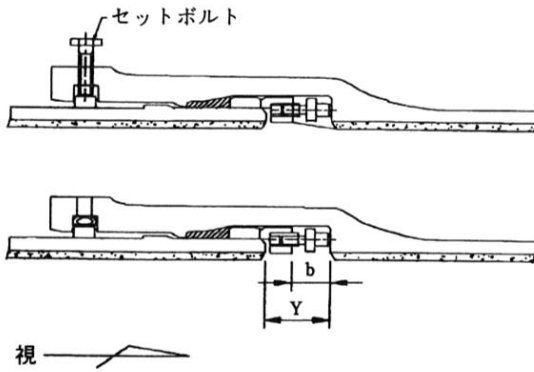
継手責任者

工 事 名

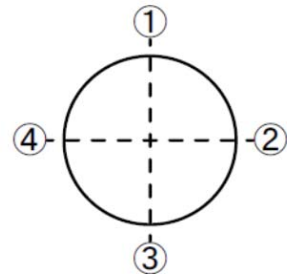
管種・呼び径

US形・φ

図面No.



測定箇所



管 体 No.

略 図

継手 No.

清 掃

滑 剤

ロックリングの間隔(a)

a<sub>1</sub>

a<sub>2</sub>

受口底部－押輪間隔  
(b)または  
締め付けトルク

①

②

③

④

胴付間隔(Y)

①

②

③

④

判 定

測定箇所:全箇所測定

# KF形継手チェックシート

施工年月日

年 月 日

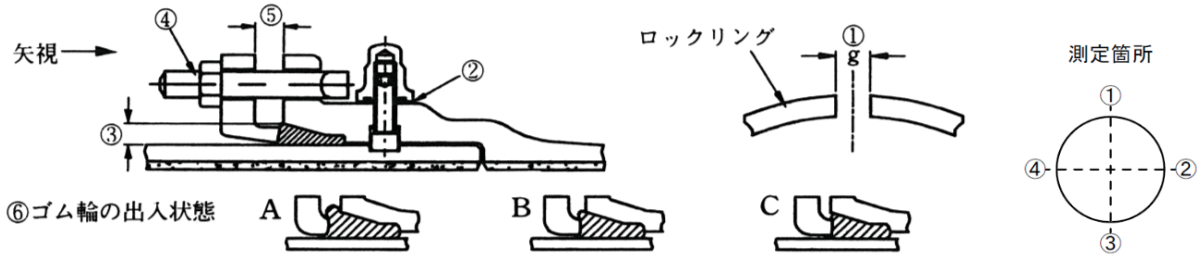
継手責任者

工事名

管種・呼び径

KF形・φ

図面No.



管体 No.										
略 図										
継手 No.										
清 掃										
滑 剤										
① ロックリングの間隔(g)	g <sub>1</sub>									
	g <sub>2</sub>									
	数									
	1									
	2									
	3									
	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
② シールキャップ	9									
	10									
	①									
	②									
	③									
③ 挿し口ー受口すき間	④									
	数									
	トルク (N・m)									
	①									
④ ボルト	②									
	③									
	④									
	①									
⑤ 押輪ー受口間隔	②									
	③									
	④									
	①									
⑥ ゴム輪の出入状態	②									
	③									
	④									
	判定									

測定箇所: 全箇所測定(測定が困難な場合は、測定箇所をずらし、対角に4箇所測定すること。)

## 判定基準

①ロックリングの間隔(g) :  $g_2 \leq g_1$

⑤押輪ー受口端面間隔 : 最大値ー最小値  $\leq 5\text{mm}$  (同一円周上)

⑥ゴム輪の出入状態 : 同一円周上でA, CまたはA, B, Cが同時に存在しないこと。



# P II 形継手チェックシート

施工年月日

年 月 日

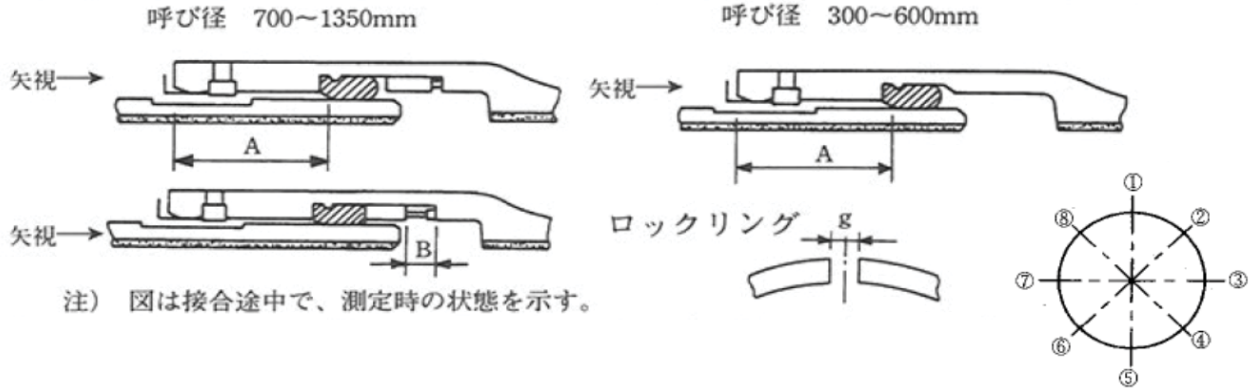
継手責任者

工 事 名

管種・呼び径

P II 形 ・ φ

図面No.



管 体 No.

略 図

継手 No.

清 掃

ロックリングの間隔(g)

g1

g2

滑 剤

受口面ーゴム輪間隔  
(A)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

呼び径700~1350mm  
押輪用ボルト

数

トルク  
(N・m)

呼び径700~1350mm  
受口ー押輪間隔  
(B)

①

③

⑤

⑦

判 定

測定箇所:全箇所測定

判定基準:ロックリングの間隔  $g_2 \leq g_1$

# 溝形フランジ継手チェックシート

(メタルタッチの場合)

施工年月日

年 月 日

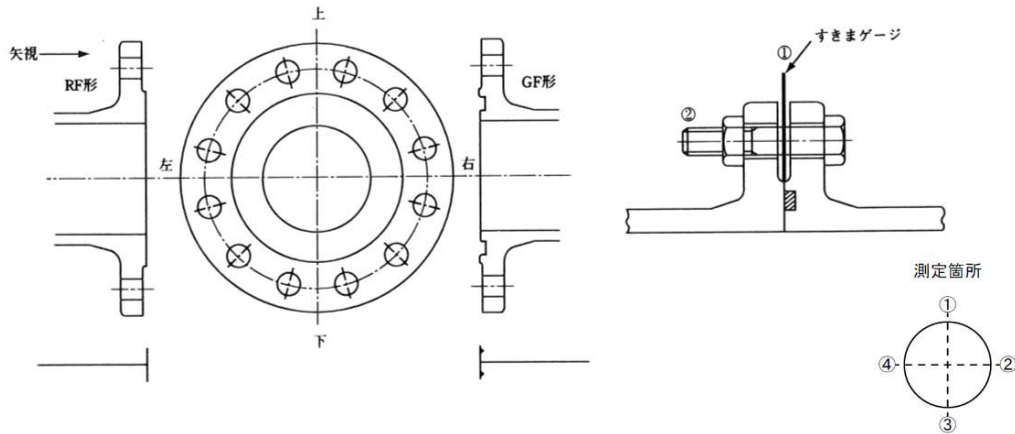
継手責任者

工事名

管種・呼び径

フランジ形 ・ φ

図面No.



製品名及び形状

製品 No.

略 図

継手 No.

清 掃

接着剤使用の有無

①  
すきまゲージ(1mm厚)  
によるチェック

② ボルト

判 定

測定箇所: 全箇所測定

判定基準

- ①すきまゲージによるチェック: フランジ面間に 1mm 厚のすきまゲージが入らないこと。
- ②ボルトの締め付けトルク : 60N・m以上

# 大平面座形フランジ継手チェックシート

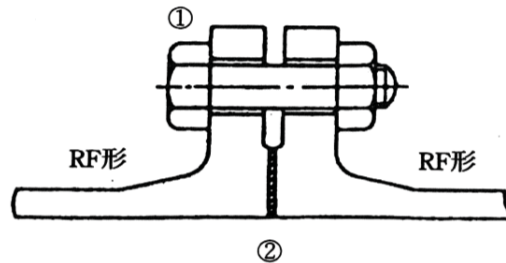
施工年月日 年 月 日  
 継手責任者

工 事 名

管種・呼び径

大平面座形 ・  $\phi$

図面No.



製品名及び形状

製品 No.

略 図

継手 No.

清 掃

① ボルト

数

トルク  
(N・m)

② ガasketの位置

判 定

## 判定基準

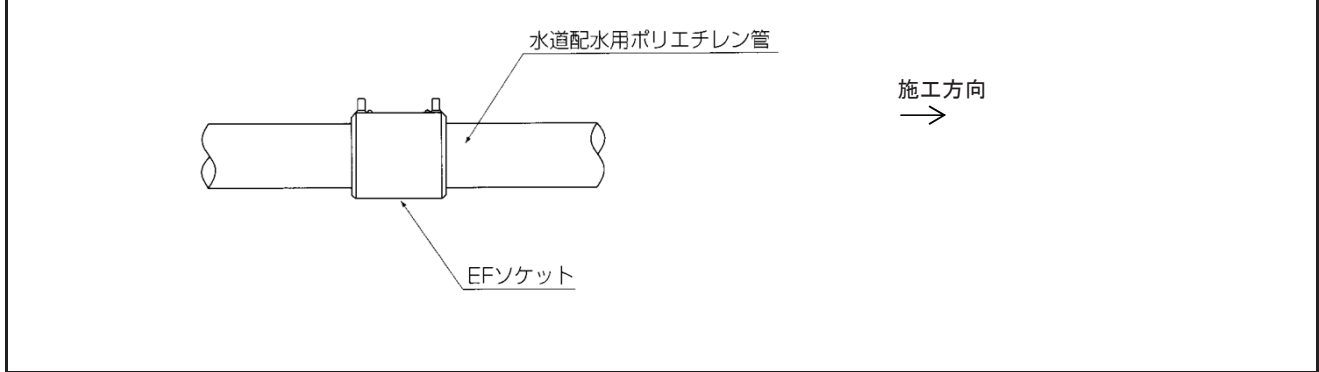
①ボルトの締め付けトルク: 別に定める標準締め付けトルクによる。

②ガスケットの位置 : フランジ面が平行にかたよりなく接合されていること及びガスケットのずれがないこと。

<b>EF 接合チェックシート</b>	施工年月日	年    月    日
	継手責任者	

工事名			
-----	--	--	--

管種・呼び径	形・φ	図面 No.	
--------	-----	--------	--



管体 No.			
--------	--	--	--

略 図			
-----	--	--	--

継手 No.									
スクレープ									
アセトン清掃									
標線の確認									
融着開始時刻									
クランプ取り外し時刻									
埋め戻し開始時刻									
曲げ施工の有無									
インジケータの確認									
発電機の仕様									
コントローラーの仕様									
陸継ぎの有無									
天候									
湧水の有無									
継手施工者サイン									
判 定									

備 考			
-----	--	--	--

# SP溶接継手チェックシート ( $\phi$ 700mm以下)

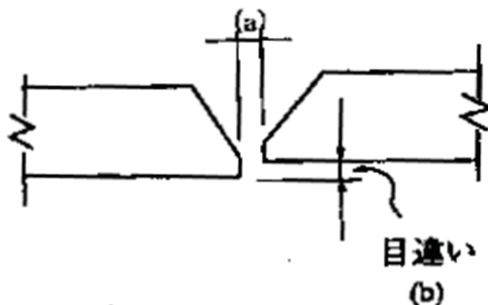
施工年月日 年 月 日  
 継手責任者

工 事 名

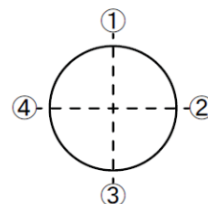
管種・呼び径

・  $\phi$

図面No.



測定箇所



管 体 No.

継 手 No.

開 先 状 態

開 先 清 掃

単位 (mm)  
 ルート間隔  
 ( a )

- ①
- ②
- ③
- ④

単位 (mm)  
 溶接の目違い  
 ( b )

- ①
- ②
- ③
- ④

判 定

備 考

# SP溶接継手チェックシート ( $\phi$ 800mm以上)

施工年月日

年 月 日

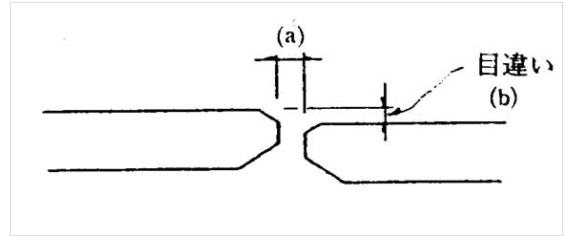
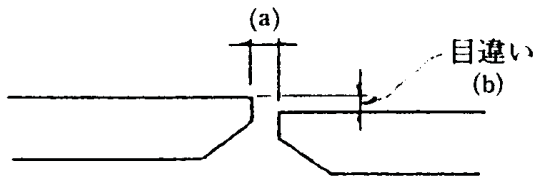
継手責任者

工 事 名

管種・呼び径

・  $\phi$

図面No.



管 体 No.

継 手 No.

開 先 状 態

開 先 清 掃

単位 (mm)  
ルート間隔  
(a)

①

②

③

④

単位 (mm)  
溶接の目違い  
(b)

①

②

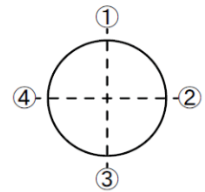
③

④

判 定

備 考

測定箇所



# SUS溶接継手チェックシート

施工年月日

年 月 日

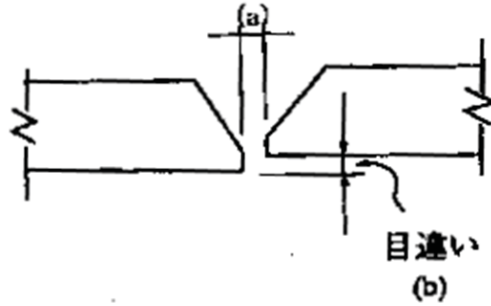
継手責任者

工 事 名

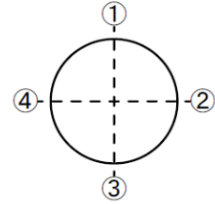
管種・呼び径

・ φ

図面No.



測定箇所



管 体 No.

継 手 No.

開 先 状 態

開 先 清 掃

単位 (mm)  
ルート間隔  
( a )

①

②

③

④

単位 (mm)  
溶接の目違い  
( b )

①

②

③

④

判 定

備 考

工事による一時断水願ひ

様

課長	係長	係員	監督
----	----	----	----

下記のとおり工事をいたしますので一時断水を許可願ひます。

年 月 日

請負者名

代表者

電話

月 日	断水時間	工事場所	工事種別
/	自 時から 至 時まで		

予想される影響戸数		
断水	水压低下	赤水 戸